

週報

日本キリスト教団

みなみやま

南山教会

<年間聖句>

「それは平和の計画であって、災いの計画ではない。将来と希望を与えるものである。」

(エレミヤ書29章11節)

<年主題>

将来と希望を信じて歩む



Since 1947. 8. 1. 創立76周年

〒470-0111

愛知県日進市米野木町南山983-16

(愛知牧場内)

牧師 村山盛芳

伝道師 大塚 勁

TEL 0561-73-6781 FAX 0561-76-3005

教会メールアドレス minamiyama@mb.ccnw.ne.jp

HP www.mb.ccnw.ne.jp/minamiyama/

先週の説教から 「復活のしるし」

ヨハネによる福音書 21章15～25節

先週学んだ、美しいガリラヤ湖畔での朝食の後、イエスがペトロに問いかけます。「あなたはわたしを愛するか」。この問いを主は三度繰り返されます。三度目の「愛する」は、一度目、二度目の用語「アガパオー（アガペー）」ではなく、「フィレオー」が使われています。三番目の問いは「愛する」ではなく「好き」という軽めの言葉で、はっきりと答えられないペトロの心情を、主は配慮されたのだ、とも考えられます。

「愛する」という言葉は、一度語ったら、もうそれでよい、ことは済んだということにはなりません。人間の絆は、家族でも友人でも、「ことば」が手掛かりなのです。勿論、実際に口から出る「言葉」として発することも大切ですが、「愛」を、「言葉」にならない「ことば」によっても、語り続けることが、必要なのです。

かつて大祭司の庭で、ペトロは、主を「知らない」と言いました。聖書で「知る」とは、「関係、関心、絆」を表す言葉です。あの時、彼は、イエスと自分とは「無関係」「無関心」だと主張したのです。「無関心」の反対語は「愛」です。ペトロが取り戻すべきなのは、努力や精進や熱心ではなく、「愛」なのです。人間は、生きる中で、「愛」を失います。それを取り戻すには、何回もの「ことば」の繰り返しが必要なのです。

18節は、ペトロの殉教の運命を示す言葉ですが、殉教や信仰と無縁などの人にも当てはまる、人生の真実な姿です。私たちは皆、いつか「行きたくないところ」、自分の望まない場所に行かなくてはなりません。しかも強いられて行かざるを得ない、というような状況に追いやられることがあります。そういう人生のリアルに、復活の主イエスは言われます、「そこに神の栄光が現われる」と。復活の主イエスにあってはどんなところでも、生命は輝くのです。(村山盛芳)

1101回・回・117

土曜10時45分
№117

経営協議会中

- 前奏
- 頌栄 119 (天のみ国)
- 主の祈り 1回
- 聖書 120以上の聖徒の手紙 111冊
1～10節 (新約1339頁)
- 讃美歌 196 (主のみ国)
- 祈禱 同会書
- 説教 「弱さを語る」
- 祈禱 大塚勁伝道師
- 今週の誕生者のための祈禱
- 奉賛者祝詞式
- 讃美歌 451 (主のみ国)
- 献金 感謝祈禱 同会書
- 頌栄 117 (父・子・聖霊)
- 祝禱
- 後奏

… 報告 …

献金感謝の祈りや聖徒の手紙を

お祈りの動画もQRコードで
ご覧いただけます。

